熊本保健科学大学
NEWSLETTER
第 328号（2026.5.18）
入試・広報課
月２回配信

健康危機管理体制の強化に向け連携

熊本県、熊本市と包括協定

熊本県、熊本市と本学は、５月８日（金）、「健康危機管理分野における包括連携協定」を締結しました。

本協定は、三者が相互に連携し、専門人材の育成や有事の際の業務支援・検査協力などを通じて、地域の健康危機管理体制を強化することを目的としています。今後は、感染症のまん延等の健康危機が発生した場合に地域の保健師等の専門職が保健所等の業務を支援する仕組みであるIHEAT要員の養成や、調査研究、専門的知見の提供及び情報共有などを行っていきます。

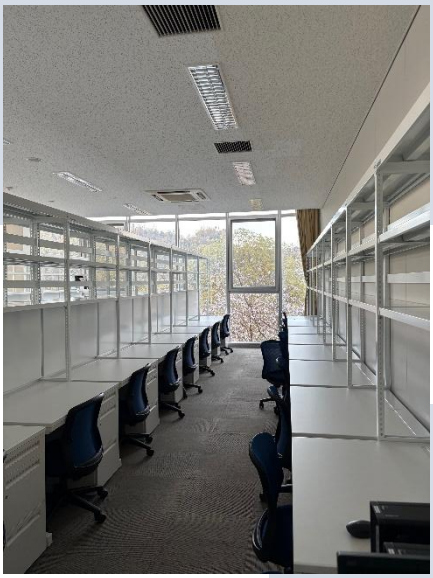
県庁知事応接室で行われた締結式では、木村敬知事、大西一史市長、竹屋元裕理事長・学長が協定書に署名。木村知事、大西市長に続いてあいさつに当たった竹屋理事長・学長は「学生がIHEAT要員となることで、平時から研修や実習を通じて実践的に学修し、有事にはその学びを地域社会で実践できる体制が整った。教育機関の立場としても今回の締結は大変意義深く、今後は教育・研究体制をさらに充実させ、いざという時に地域に貢献していきたい」と、今後の展望と決意を述べました。（入試・広報課）

協定書を手にする、左から木村知事、竹屋理事長・学長、大西市長

一人一人に専用デスク、Wi-Fi環境整備…

新たな環境で研究に専念

新大学院生室が運用開始



２カ所の部屋を１カ所に集約した新たな大学院生室。院生一人ひとりに専用デスクが整備されています

新たな大学院生室の運用が、４月１日（水）から開始されました。これまで大学院生室は1406ゼミ室と2206室の２室に分かれていましたが、今回、２号館2210室へと集約され、より利用しやすい環境に整備されました。

新たな大学院生室では、大学院生一人ひとりに専用デスクが配置されるとともに、Wi-Fi環境も整備されるなど、日常的な学修・研究活動をより快適に行える環境が整えられました。また、冷蔵庫や電子レンジ等の備品も用意されており、長時間の滞在にも対応することができます。

なお、これまで大学院生室として利用されていた2206室は大学院講義室として整備され、今後は講義やミーティング等での活用が予定されています。本施設の整備により、大学院生の学びと研究環境のさらなる充実が期待されます。

（学務課）

アカデミックスキル
支援センター

レポート

全学必修科目「アカデミックスキルⅠ」

新リーダー学生迎え養成講座

先行学修の成果をクラスに還元、自己研鑽も

「アカデミックスキルⅠ」で授業を支援するリーダー学生の養成講座を、４月下旬から始めました。本年度、名乗りを上げてくれた１年次生リーダーは９人（医学検査学科１人、看護学科３人、理学療法学専攻１人、言語聴覚学専攻４人）。継続的な課外講座を通じて授業内容を先取りし、クラスメートのサポートに回ります。

４月23日（木）の初会合では、授業担当の渡邊淳子教授が「研修で得たものをクラスに還元してほしい。勇気をもって手を挙げ、この場に座っていることが、先では多くの人に影響を与えることになるはずです」と激励。センタースタッフの紹介に続き、リーダー学生一人一人が「人前で自信をもって話せるようになりたい」「（センターの）学生指導員になりたい」などと抱負を述べました。

養成講座は７月まで週２回程度、センタースタッフと共にリーダー学生経験者でもある学生指導員が指導に当たります。その後はライティングに特化した「アカデミックスキルⅡ」に移行します。

（アカデミックスキル支援センター）

先輩でもある学生指導員の説明を聴くリーダー学生たち

「学び」の構えづくりに基調講義

河瀬事務局長
久保田入試・広報課長

全学必修科目「アカデミックスキルⅠ」の基調講義を４月下旬から５月上旬にかけ、各クラス２回企画し、河瀬晴夫事務局長＝**写真上**＝と久保田憲寿入試・広報課長＝**同下**＝が入学したばかりの１年次生を前に、高校と大学での「学び」の違いや、「伝える」ためのスキルの大切さなどを説きました。

河瀬局長は「大学生の学修マインド」と銘打って、高校までの「学習」と大学での「学修」の違いを説明。本学の四綱領やディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を紹介しながら、大学生活を充実させるためにも目標設定の大事さを訴えました。

一方、久保田課長は、就職試験の際に大きなウエートを占める面接や小論文を挙げながら、早い時期から「書く」、「話す」といった「伝える力」の必要性を強調。具体例を挙げながら、新入生に向け熱く語り掛けていました。

（アカデミックスキル支援センター）

銀杏アラカルト

■フェスタ来場者の健康チェック

「フラワー＆フーズフェスティバル」が５月２日（土）、３日（日）の２日間、フードパル熊本にて開催されました。本学は今年も健康チェックコーナーに参加し、ボランティア学生が体成分測定、骨密度測定、血圧測定の3項目を実施しました。２日間の来場者は187人。２日目は強い雨に見舞われるあいにくの天候となりましたが、80人近い人たちが来場しました。測定を受けた人たちからは、「骨密度を測る機会はなかなかないので、受けることができて良かったです」といった声が聞かれるなど、大変好評でした。（地域連携委員会）

ステージで健康チェックコーナーへの来場を呼び掛ける学生たち

新任教員 私の研究

在日外国人に適した防災教育

福岡　美和
看護学科教授

これまで、母子の災害研究に取り組み、避難所生活での困りごとなどを明らかにしてきました。また、幼少期の被虐待経験と女性の健康との関連について取り組み、健康障害を及ぼすことを明らかにしました。今後は、在日外国人の防災教育の研究に取り組み、在日外国人の防災教育の参加状況や在日外国人に適した防災教育の在り方について明らかにしていきたいと思います。

副作用少ないがん治療薬求め

大里　元美
医学検査学科教授

がんはどうして起こるのだろう？を突き止め、悪くなった部位のみを標的にすれば副作用の少ない薬（分子標的治療）ができるはずである、と考え研究をやって参りました。結果の一部はWHO白血病分類や教科書にも記載されましたが、肝心の患者さんへお届けできる新薬の開発までは辿り着いておりません。候補薬はありますので熊保大でこれを育てたいと思います。一緒にやってみたい方、もっと話を聞いてみたい方、気軽に研究室に寄ってみてください

健康・スポーツ教育研究センター レポート

11選手 身体機能や特性を測定・評価

シーズン開幕控え鶴屋女子バスケット部

シーズン開幕を控えた鶴屋百貨店女子バスケットボール部へのLaboratory Test（アライメント評価、BIODEX測定など全７項目）を４月22日（木）、KMバイオロジクスアリーナで実施しました。

健康・スポーツ教育研究センター教員の指導のもと、理学療法学専攻スポーツリハビリテーションコースの学生およびリハビリテーション領域の大学院生が参加し、11人の選手一人ひとりの身体機能や特性に関する測定を行いました。

今回は、チームトレーナーからの要望を受け、股関節機能・体幹機能・ジャンプパフォーマンスを中心に評価を行いました。これは競技現場で課題とされている点を測定・数値化し、その結果を日常の指導やトレーニングに活かしてもらうことを目的としています。測定結果については、５月末にチームへのフィードバックを予定しており、その際には、フィードバック内容を反映したトレーナーによるトレーニングを、学生が見学および一部体験する機会も設けられる予定です。

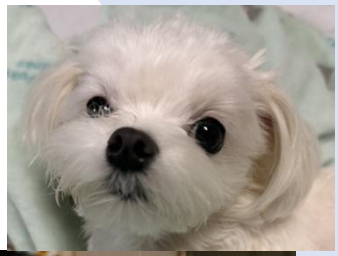
同部は、リハビリテーション学科理学療法学専攻および健康・スポーツ教育研究センターの枝尾久美講師が長年サポートしてきました。現在は、後任のトレーナーがチームの活動を支えています。

（健康・スポーツ教育研究センター　中村祐貴）

測定の内容を説明する枝尾講師

私の秘話ヒストリー

わが家に欠かせぬ２匹



医学検査学科　松村　剛教授

わが家には、２匹の犬がいます。１歳の雌は純血のマルチーズ、11歳の雄はマルチーズとチワワのミックス犬です。年齢も性格もまったく違いますが、今ではどちらもわが家に欠かせない存在です。

１歳のマルチーズは、とにかく元気いっぱいです。家の中を走り回り、こちらが少し座ろうものなら、すぐに膝の上に乗って甘えてきます。その無邪気さと甘え上手ぶりに、家の空気は一気に明るくなりました。

一方、11歳の子は、人間でいえば還暦を迎える頃の立派なシニア犬です。以前は落ち着いた兄貴分のように過ごしていましたが、１歳の子の甘え方に影響されたのか、最近では驚くほど赤ちゃん返りをしています。抱っこをせがんだり、構ってほしそうに見つめてきたりする姿には、少々気持ち悪いほどの可愛らしさがあります。もっとも、今くらい甘えてくれれば、健康的でちょうどよいのかもしれません。

行事予定（５月18日～６月１日）	
５/18（月）～６/30（火）	【オンデマンド】保護者会(看護３年,OT３年,ST２年)
５/21（木）	学友会総会
５/27（水）	お披露目講演会等①
６/１（月）	お披露目講演会等②

※「NEWSLETTER329号」は6月1日（月）に配信します。